

地方のポテンシャルを引き出すテレワークやWi-Fi等の活用に関する研究会（第1回）

議事概要

1. 日時

平成26年10月28日（水）17時00分～18時30分

2. 場所

総務省7階省議室

3. 出席者

（1）構成員

須藤座長、浅川構成員（小林代理）、飯泉構成員（田尾代理）、石戸構成員、鵜浦構成員（栗山代理）、遠藤構成員（織田代理）、大南構成員、川原構成員、坂村構成員、篠崎構成員、高島構成員、田澤構成員、田中構成員（藤田代理）、谷川構成員、日比野構成員、本田構成員（菊池代理）、松山構成員、三友構成員、山本構成員（香川代理）

（2）オブザーバ

内閣官房情報通信技術総合戦略室、観光庁、一般社団法人インターネットプロバイダー協会、一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟、一般社団法人日本テレワーク協会、一般財団法人全国地域情報化推進協会

（3）総務省

高市総務大臣、長谷川総務大臣政務官、大石事務次官、戸塚総務審議官、桜井総務審議官、福岡官房長、今林官房総括審議官、鈴木情報通信国際戦略局長、安藤情報流通行政局長、吉良総合通信基盤局長、南政策統括官、池永官房審議官、岡崎情報流通振興課長、今川地域通信振興課長

4. 議題

- （1）地方のポテンシャルを引き出すテレワークやWi-Fi等の活用に関する研究会の開催について

- (2) ICT と地方創成について
- (3) 構成員からのプレゼンテーション
- (4) 意見交換

5. 議事概要

冒頭、高市総務大臣より挨拶があった。

- (1) 開催要綱及び今後のスケジュール（案）について
事務局より、資料 1-1 及び 1-2 に基づき説明が行われた。
- (2) ICT と地方創成について
事務局より、資料 1-3 に基づき説明が行われた。
- (3) 構成員からのプレゼンテーション
大南構成員、田澤構成員、高島構成員より、資料 1-4、1-5 及び 1-6 に基づき説明が行われた。
- (4) 意見交換
主な意見は以下のとおり。

【浅川構成員／小林代理】

- ICT を活用した就労には、地方の人材、ダイバーシティを持った人材を活用していく大きな可能性がある。従来のパソコン、インターネットを用いたテレワークだけではなく、モバイルやウェアラブル、テレプレゼンスロボットのようなインターフェース技術、あるいは情報解析、データ解析技術等を活用して、テレワークが質の面で発展していくことを期待。

【飯泉構成員／田尾代理】

- ICT は地方活性化に不可欠。神山町と上勝町の成功事例が日本全国に普及されることを期待。

【石戸構成員】

- Wi-Fi の整備に関して、これまでも長い間議論されてきているがなぜ進まないのかという課題の整理を行うことが前提。その際、「地方」や「地域」という言葉が指す範囲を整理することが必要。また、地域での創意工夫により生まれた利活用モデルが共有できるとよい。

【鶴浦構成員／栗山代理】

- ICT の利活用を進めていくためには、首長や企業のトップのリーダーシップと地元企業や住民等の情熱が必要である。

【遠藤構成員／織田代理】

- ふるさと勤務を広げていくためには、Wi-Fi を含めたネットワーク、テレワーク又はクラウドの活用が必要。また、導入時の支援だけでなく、持続可能な環境の構築に向けた支援が重要。

【川原構成員】

- テレワークで重要なことは、いわゆる通常の作業の中でのコミュニケーションであり、働いている人たちを孤立化させないための制度や仕組みを構築することである。
- クラウド活用の効果として、あるところで優れたものができたら、それを他へすぐ援用可能というものがある。この研究会を通じて、クラウドの効果についても発信していきたい。

【坂村構成員】

- 技術は非常に重要であるが、テレワークやWi-Fi を用いれば全て成功するわけではなく、制度改革についても取り組まないといけない。社会全体をネットワークの志向に変えるという覚悟が必要。

【篠崎構成員】

- インターネットは地方に埋もれていた情報を引き上げてくる力がある。ふるさと納税

は、納税者の声も反映するとともに、地元の経済・産業に対する需要を生み出しており、ネットの威力を上手く使えば、大変意味のある効果があるのではないかと。

【高島構成員】

- ICT を使わない人にとっては、言葉の意味もよく分からないというレベルのため、普及を妨げる一つの要因となっている。まずは、ICT によって自分たちの生活にどのように便利になるのかということ、実際に体験してもらうことが重要である。

【田澤構成員】

- ふるさと勤務があっても、教育が十分でないため、地元に戻れないということはある。地域の子ども達が地元に戻ってこれる可能性があるということ認識してもらうためにも、遠隔教育が重要。また、地方においては、Wi-Fi のスピードがそれほど確保できていないことから、テレワーク、教育、Wi-Fi に関して検討を進めていきたい。

【田中構成員／藤田代理】

- テレワークに関して、セキュアなネットワークをいかに作れるかが重要。また、ネットワークができたとしても、企業の人事制度とアンマッチな状況であり、そのバランスを取りながら進めていくことができるかが重要である。
- Wi-Fi に関しては、いかにビジネスモデルを作るかが重要。BtoC 以外にも BtoBtoC のモデルなど様々な方法があるため、どのようにビジネスモデルを構築していくか検討すべき。

【谷川構成員】

- 地方の物産を海外に直接売っていくために必要なことを検討してもいいのではないかと。また、地方での成功事例をうまく横展開仕組みが出来ないかと。

【日比野構成員】

- Wi-Fi のインフラ整備、コンテンツ開発、開発したコンテンツの発信、という3つがうまく回れば、ビジネスモデルが見えてくるのではないかと。

【本田構成員／菊池代理】

- ネットワークの高度化と規制改革が重要。今後、ワーキンググループで議論を深めたい。

【松山構成員】

- 8万点のWi-Fiスポットはできており、ある程度のサービスはできるようになっているが、それぞれにメールアドレスやパスワードを入れないといけないという使い勝手が悪い状況であるため、1回手続をすればシームレスに使えるような仕組みにするためにはどうすればいいか。また、国としてどこまでWi-Fi整備に対して支援を行うのかという議論が必要。キャリアのWi-Fiポイントが約70万点あるが、それを開放する方法がないかも併せて議論していただきたい。
- テレワークを活用してどのような仕事をするかと、どのような人材を活用するかというマッチメイキングをしっかりと整理する必要がある。

【三友構成員】

- Wi-Fiは、単にネットワークだけを作るわけではなく、その先にある地域社会の再興に向けたに活用方法についても考えながら整備していくことが必要。ネットワーク多様性の観点からはWi-Fiの整備は重要だが、大事なことは、ロードマップをきちんと作って推進していくこと。

【山本構成員／香川代理】

- 定着させるためには、あったら便利ではなく、仕事や生活のインフラ、なければいけないという形に持っていくことが重要。
- 人や物すべてをつないで見える化し、全てがネットワークの享受を受けることによって、テレワークの環境整備も進むのではないか。ただし、全てをつなぐことによるセキュリティの問題といかに両立させていくかが課題。

【大南構成員】

- ルーチンワークよりも、クリエイティブワークや戦略・企画のほうにサテライトオフ

イスが向いているのではないか。また、サテライトオフィスは設置のコストがほとんど必要ないため、中・大企業にとっても実験的に取り組みやすいのではないか。

【須藤座長】

- 東京オリンピックは直接のタスクではないが、Wi-Fi とテレワーク環境が整備されることにより、東京で生まれる多くの仕事を取ってこられるようになるのではないか。

意見交換後、長谷川総務大臣政務官より挨拶があった。

以 上